

第9回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議 事 概 要

開 催 日：令和6年10月 1日（火）

時 間：15:00～17:00

場 所：京都国道事務所5F会議室
（WEB 会議形式併用）

1. 観光からみた京都の現状と課題

- 事務局より、秋の観光シーズンを控え、京都観光における現状と課題について説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおりである。
 - 訪日外国人客は長期滞在することが多いことから、外国人宿泊客の増加による影響は更に大きいとみられる。
 - 外国人観光客の訪問地は、日本人観光客と異なるエリアに集中していることから、日本人向けと外国人向けで誘導の仕方を変えることも必要かもしれない。

2. 観光渋滞対策の新たな試み

- 事務局より、新たな取組みとして「観光地混雑情報マップ」と「駐車場予約システム」の概要や、情報提供するにあたっての広報戦略について説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおりであり、頂いた意見を踏まえて検討・調整を進める。
 - 今後の混雑ピークを見据えて、混雑状況の発信や駐車場予約をパッケージ化して実施するという全体方針に異論はない。

＜観光地混雑マップ＞

- まずはスタートとして「京都市内の分散」を考えることは問題ない。今後、このツールを更に発展させ、丹波地域や近隣の他府県等の「広域分散」に繋げていくことが、京都の観光混雑対策として有効ではないか。
- 広域分散については、周遊観光促進に向けた「まるっと京都」という取組を開始しており、府市連携による分散を図っていきたいと考えている。
- 観光客は根本的に集中するもので、対策を実施することはできても、分散させることは難しい。何もなかったところに観光客は行かないという原則を理解する必要がある。
- 魅力のあるところに観光客が集中することは避けられないことから、他地域の魅力を高め、惹きつけられるものを作っていくことも必要である。
- データを蓄積する必要があるが、過去の実績に基づく混雑予測等、事前に情報収集する人に向けた発信内容も検討して頂きたい。
- マップの使い方に関しては、我々が想定していないような賢い使い方をユーザーが見つけてくれる場合があるので、モニタリングが必要である。
- 典型的な観光パターンからの脱却が必要であり、宿泊施設や商業施設との協力も必要になるが、宿泊して朝から観光する等、これまでと違う行動や発想を生み出すためのプラットフォームとなれば良い。
- 今後、観光による消費額をどう伸ばしていくかも考える必要があり、日々変わる客層に応じた情報発信も必要である。

〈駐車場予約システム〉

- 駐車場予約システムの導入は画期的なことであり、継続的なパークアンドライド利用者にも情報が届くようにしてほしい。
- 公共交通機関やパークアンドライドを利用してもらうことが基本であり、何らかの事情によりマイカーで来られる方は駐車場を予約してもらうというメッセージをしっかりと発信することが重要であるため、京都市と連携して情報発信を行うことを検討する。

3. 効果検証について

- 事務局より、観光地や道路の混雑に対する効果検証方針や、情報提供システムの評価について説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおりであり、頂いた意見を踏まえて検討・調整を進める。
 - 嵐山地域では奥嵯峨エリアへの周遊を促すこととしており、滞在時間を延ばすことで混雑緩和に寄与することから、エリア内の回遊についても検証し、多層的な周遊・回遊戦略に繋げてはどうか。
 - 定量的に状況を把握することは重要だが、次のステップとして数値目標の設定が必要である。
 - 駐車場予約システムについては、予約して訪れた車が目的の駐車場に辿り着けているのかについても検証して頂きたい。

4. 今後の進め方について

- 事務局より、観光地混雑状況マップの公開期間等について説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおりであり、頂いた意見を踏まえて検討・調整を進める。
 - 今回のプロジェクトを幅広く周知し、多くの観光客や市民に理解してもらう重要である。
 - マップの公開期間については、昨今、繁閑差が縮まっているという話もあるので、秋以降も継続して公開して頂きたい。

5. 意見交換

- 京都市・歩くまち京都推進室より、新たな取組みである東大路通社会実験の話題提供が行われた。
- 京都における観光課題解決に向け、中長期的な観点での意見交換が行われた。
 - 京都国道事務所を主体とした今回のプロジェクトは、将来の目標に向けた重要な第一歩である。ただ、このような取組には目標があって然るべきで、目標に対して今どこにいるのかを考え、評価していく必要がある。
 - 今後の中長期的な視点から言えば、何を目標として、何をマイルストーンとするのか等、毎年のプロジェクトを積み上げてどこに向かうのかの議論が必要である。
 - 都市は人間のものであり、車で占拠された観光地は価値が下がってしまう。東山や嵐山での取組みの結果として、市内の主要道路の渋滞が緩和されることが一つの目標になると考えられる。
 - 対策への評価は、専門家と都市を形成する重要なステークホルダーである市民とで目線が異なる。数値による評価も必要だが、市民は感覚的なものでも評価するので、市民がどの程度のことを求めているのかを知る必要がある。
 - 市民生活への影響の軽減がこの対策の目標であり、この点をどう評価してもらえるかが重要であり、このような取組みを市民に示すことも必要である。
 - 本協議会として中長期的に何を目指すのか、そのためにどのような取組を積み上げるのか、今後、継続的に議論していきたい。